第51弾

作家さんはアイドルです。

M「今回のテーマは、推し作家。私たちが好きな作家さんを紹介、押しつけてやろうという夢のような企画です」
T「ごり押し」
F「小さいころは作家という存在を強く意識していませんでした。この本好き、こういう本読みたい!って思ったときに同じ人が書いていることに気づいて・・・・・・そこからはもう作家さんのおっかけ。T さんは推している作家さんはいますか?」
T「えっと、香月日輪さんはずっと推しています」
F「『妖怪アパート』シリーズのかたですよね! 私も読んだことがあります」
T「ファンタジーをよく書かれていて。登場人物が皆、明るくて面白いんです。M さんの推し作家はどなたですか?」
M「私は、今回青崎有吾さんを推します!」
F「最近、いろんな作品が映像化されていて、まさに今来ている作家さん!」
M「そうそう、あのかたは『平成のエラリー・クイーン』と言われています」
F「おお〜・・・・・・ってそれはどういう点ですごいのでしょう?」

M「ん?」
F「エラリー・クイーンってよく知らなくて」
M「・・・・・・T ちゃん、教えてさしあげなさい」
T「(急に!?) えっと、えっと、作中に作者と同じ名前の人物が出てくる・・・・・・?」
F「へえ〜、そうなんですか?」
M「出てこないわよ」
F「え!? じゃあ、どういうところがエラリー・クイーン・・・・・・?」

M「人を頼らない! 自分で調べなさい!」
F「(小声で)逃げた・・・・・・?」T「(小声で)まさか・・・・・・」
M「そういう、F さんは誰推しなのよ?」
F「いっぱいいて、もはや誰が推しなのかわからなくなってきました・・・・・・」
T「・・・・・・浮気?」
F「みんな本命です! 神戸遥真さんは好きですね。最近、トキメキ成分はこのかたから仕入れています」
T「こうしてみると、三者三様でおもしろいですね」
F「あなたに刺さる作家さんは必ずいます!
見ーにーきーてーください!」

←QR コードでもアクセスできます

インスタグラム公開中　ここにアクセスしてね★
https://www.instagram.com/hondarake55

Volume.58

YA通信

ホンダラケ

2023. 10.1

推し作家、押しつけ隊!

F「語り出したら、とまらねぇってやつですよ・・・・・・」
M「なあに、かっこつけてんの」
T「・・・・・・メモします」
M「しなくていいからっ」

『人間みたいに生きている』

佐原ひかり/著　朝日新聞出版　2022 年刊

F/サハ

著者は、兵庫県生まれ。2019年に氷室冴子青春文学賞大賞を受賞し、デビューされました。氷室冴子氏といえば、まさに十代の皆さんに絶大な人気を誇った作家。そのお名前を冠した賞を受賞されたことからも期待大と言わずにおれません。
この作品は、食事自体に嫌悪感を覚える高校生が主人公。皆が良しとするものを良いと思えない辛さ。周囲にうまくなじめない、はずかしくて申し訳なくて、でも受け入れてほしい。そんな心を描いて、最後にはほのかな希望を見せてくれます。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のＹＡ（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。
２か月に１度、年６回発行予定です。
ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。ＹＡコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「食」
「食欲の秋」と「読書の秋」を一緒に楽しめる、おいしい展示になりそうですね

F/アオ

『月曜日の抹茶カフェ』

青山美智子／著　宝島社　2021年刊

「偶然」の出来事で「必然」の出会いが生まれ、その出会いがまた別の「偶然」に繋がっていく。人はどこかで必ず繋がっていて、あなたの何気ない行動が、あなたと繋がっている人々に小さな波紋のように広がっていく。小さな奇跡を食べ物と人の繋がりを辿ってみつけていく。京都と東京を繋ぐ物語。抹茶、和菓子、人を繋ぐ食べ物にも注目です！

P.N. あお（高校1年生）

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『シアワセなお金の使い方 新しい家庭科勉強法2』

南野忠晴／著　岩波書店　2015年刊

591/15

いつも、みなさんは何にお金を使うことが多いですか？
友達と遊ぶ、欲しいものを買う、「推し活」をする、貯金する・・・・・・など、たくさん思い浮かぶでしょうか。
この本のテーマは、使い道にかかわらず、どれも同じ「お金を使う」という行為なら、自分も、周りも、果ては社会まで、シアワセになれる使いかたを学んでみよう！というもの。
お金について知るだけじゃなくて、これから先、どんなふうに使っていきたいのか、自分にとってお金はどんな存在なのか、考えてみませんか。お金と向き合う時間は、今、そしてこれからの生活にとって、価値のあるものになるハズです。

新着図書 Pick Up

『翼をもたない私たちは、それでも空を飛びたかった。』

山下君子　麻希一樹　橘つばさ／著 Gakken　2023年刊

F/ヤマ

中高生は忙しい。部活・受験・恋愛・友情・・・。これに加えて不登校やヤングケアラー、リストカットなど別の問題も抱えた女の子たちを描いた短編集です。子どもではないけれど、大人でもなく、ひとりで生きていくことはできない世代。問題解決のためにどうすればいいのか、誰を頼ればいいのか、気持ちをどこへ持っていけばいいのか・・・。悩んで戦ってそして、どの作品の彼女もラストに清々しく空を見上げている姿が目に浮かびます。読めばきっと彼女たちにエールを贈りたくなります。

難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

『十八の夏』

光原百合／著　双葉社　2002年刊

昨年58歳で亡くなられた光原百合さんは、発表した作品は少ないけれど、紡がれる不思議で優しいミステリーに「実は好き」という隠れファンが多いのです。この作品は日本推理作家協会賞を受賞した彼女の代表作。予備校生の信也が「偶然」出会った年上の女性、彼女が育てる朝顔の鉢。ひと夏の思い出と最後に明かされる隠された真相がほろ苦く爽やかなミステリーです。神秘的なファンタジーにミステリー要素を取り込む作品が持ち味の光原さん。未読の方はぜひ手に取ってみてください。

F/ミツ